

【議事】

(1) 宇宙開発に関する国家基幹技術の推進の在り方に関する 見解の策定について（前半）（衛星観測監視システム）

先ず、文科省の千原 由幸 宇宙利用推進室長が、資料18-1-1（衛星観測監視システム）を説明した。井口委員長が、1-1の文科省の見解と、1-2の委員会の見解と二つあってややこしいとの発言があったが、「まあいいか」ということになり、文科省の池原光洋参事官（宇宙航空政策担当）が資料18-1-2（国家基幹技術・衛星監視システム）を説明した。以下の議論が行われた後資料18-1-2が採択された。

井口：「期待する」との表現が多いが、JAXAに期待するばかりでなく、文科省もしっかりと努力をしていただきたい。

青江：「期待する」と書いてあるが、これは要望ではない。委員会で決め、これをJAXA等が実行しなさいということである。

間宮（JAXA）：妥当な要求であり受けられると受け止めている。

井口：これまで、「みどり」「みどりⅡ」と大型で開発に長期を要するものが主流であった。しかも失敗してきた。利用先導の考え方で、科学者の意見を取り入れ、中小型に志向し、5年以内の開発を目指すとの方針が書かれている。これらをぜひとも実現していただきたい。

森尾：これらの資料の中で、「正しい情報に基づく迅速な決断」と「人材交流」については重ねてお願いしたい。

【議事】

(1) 宇宙開発に関する国家基幹技術の推進の在り方に関する 見解の策定について（後半）（宇宙輸送システム）

先ず、文科省の奈良 人司 宇宙開発利用課長が、資料18-1-3（宇宙輸送システム）を説明した。（参考）と記され、別冊に閉じられた資料は、前回（17回）の資料を大幅に増強したもので、奈良課長の説明の多くはこの参考資料を用いたものであった。続いて、文科省の池原光洋参事官（宇宙航空政策担当）が資料18-1-4（国家基幹技術・宇宙輸送システム）を説明した後、以下の議論が行われた、多少の修正指示がされた後、資料18-1-4が採択された。

井口：まず、JAXAはこれをどのように受け止めているのか、聞きたい。如何ですか。

間宮（JAXA）：国際協力という枠組みの中で、予測できないことが起こり得る。しかし、そのような状況にあっても、（ここに示された方針に則り）対応する所存である。また、体制を整備してきたが、更に整える計画も持っている。

井口：（参考）資料は何度も出てきて、その度に異なる。例えば4ページと5ページは何が違っているのですか？

奈良：推進体制と実施体制で、後者はJAXA内を詳しく、…

樋口（JAXA）：報告が遅れて申し訳ないのですが、白木が4月1日で理事になり、立川理事長に直結する。管理階層の削減に取り組み、今は2階層にまで減らした。JAXAは改革を進めてきており、大分変わっている。（衛星での森尾委員の発言を思い出しての発言と思われるが）現在のJAXA

はこれら要求を既に達成しているものもあると思っている。

井口：宇宙開発委員会が「H-IIAロケットが所期の目標を達成したと判定」との記事があるが、その後（打上げに）失敗している。この表現ではその辺りのことが正しく伝わらない。また、細かいことですが、システムズエンジニアリングの記事で、「図れる」というのは誤りで、「図る」が正しい。システムズエンジニアリングをやれば、（自動的に）必ずコスト低減を達成できる訳ではない。また、2ページ目で、コスト管理について記述してある「H-2B」の前の文章が「るが、」となって続けられている。誤解を生じる表現であり。「る。」と切ってください。

松尾：井口委員長の最初の指摘事項は、H-II BとHTVに目が行ってしまっただけのものと思うが、このままではまずい。

奈良：時系列に従い、判定から失敗、指摘事項の実施と書くようにしましょうか。

青江：すべてを包み隠さず書くと良い。

松尾：要点は言われたことを実施することであって、…（「くどくど解りにくいことを書くな」とまでははっきり言わなかった）

井口：全部削ってください。

井口：JAXAの若い方々との話から感じると、ここにいらっしゃる方々は十分ご理解されているのですが、責任と権限の意識が何処まで浸透しているのか不安になる。是非しっか

りと教育、浸透させていただきたい。

井口：折角白木さんが居らっしゃるので、HTVに関して聞きたいことがある。HTVは有人でしかも動く。JEMで有人を経験したとは言え、HTVはまだまだ敷居の高いものだと考える。

白木：そのように認識しています。JAXAが今まで経験した中で、最も難しいものと考えて臨んでいる。

井口：HTVは打上げ回数が多い。そのため、打上げ安全に関して細かく記述されていることを知っている。

井口：安全設計は基本的には冗長設計である。従って無暗に安全性を追求することは、重量増に繋がり好ましいことではない。信頼度、成功率はどの位を想定しているのか？

白木：100%を目指したいところであるが、90%位を目標にしている。

井口：信頼度は計算で出すのであるが、ここのコンポーネントの信頼度の数値が正しいとの前提で計算するもの。数字だけで議論しても始まらない。

白木：計算上95%位の数値が出てくる。これが成功率95%を意味していないことは承知している。ミッションサクセスのクライテリアの考えながら、目標信頼度の達成を評価して行く。